



# 未来へつなぐあだちプロジェクト

令和5年度  
子どもの貧困対策実施計画  
評価及び所管の考え・方向性



政策経営部子どもの貧困対策・若年者支援課  
令和6年1月作成

「未来へつなぐあだちプロジェクト 第2期子どもの貧困対策実施計画(令和2年度～令和6年度)」に掲載されている事業のうち、特に重点を置く事業について、令和5年度子どもの貧困対策実施計画(令和4年度実績)の外部評価(学識経験者)を行いました。

学識経験者の評価・意見をふまえ、所管の考え・方針をまとめました。

今後の子どもの貧困対策の施策に活用してまいります。

## 外部評価を実施した事業

- 1 若年者支援事業
- 2 外国にルーツを持つ児童・生徒の居場所を兼ねた学習支援事業
- 3 自立支援事業
- 4 学校における外国籍と外国にルーツをもつ子どもたちへの支援
- 5 発達支援児に対する事業の推進
- 6 教育相談
- 7 不登校支援
- 8 養育困難改善事業
- 9 学習環境整備支援(塾代支援)等
- 10 あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト(ASMAP)の推進事業

### 学識経験者

東京都立大学 人文社会学部

教授 阿部 彩

一橋大学大学院 社会学研究科

教授 山田 哲也

日本大学 文理学部

教授 末富 芳

## 令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	若年者支援事業			
事業内容	高等学校進学者等の中退防止や学び直し等の学習支援、就労支援を通じて、若者たちの置かれた環境によって選択肢が狭まることなく、自身の希望する進路の実現や社会的自立を支援する。			
子どもの貧困対策に資する役割・目的	中途退学により将来の社会的・職業的自立に支障をきたすことがないよう、中学校、高校、都、区等の関係機関が一体となり、中途退学予防や中途退学後の支援に取り組む。			
対応する予算の事務事業名	子どもの貧困対策・若年者支援事業 あだち子どもの未来応援事業	担当部・課	政策経営部 あだち未来支援室 子どもの貧困対策・若年者支援課	

### ■活動・成果指標、事業費

単位：千円

①	指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2					
				R2	R3	R4	R5	R6	
活動	若年者支援相談窓口の相談数	件	あだち若者サポートテラス(SODA)の相談件数	目標値	-	-	150	200	
				実績値	-	-	233		
				達成率	#VALUE!	#VALUE!	155%	0%	#DIV/0!
				事業費			15,752		
活動	【高校生応援支援金】支給人数 (R4実績はないが参考に意見交換)	人	高校生応援支援金を支給した高校生の人数	目標値				300	
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	#DIV/0!
				事業費					
活動	【高校生世代の居場所型学習支援事業】支援人数 (R4実績はないが参考に意見交換)	人	高校生世代の居場所型学習支援事業を利用した高校生・中途退学者等の人数	目標値				50	
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	#DIV/0!
				事業費					
活動	【足立ミライゼミ】参加者数 (R4実績はないが参考に意見交換)	人	足立ミライゼミに参加した高校生の人数	目標値				25	
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	#DIV/0!
				事業費					
活動	【あだち若者サポートテラス(SODA)が実施する伴走型コミュニケーション支援事業】支援人数 (R4実績はないが参考に意見交換)	人	伴走型コミュニケーション支援事業を利用した若者の人数	目標値				15	
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	#DIV/0!
				事業費					
成果	「今後困難なことがあっても夢や希望の実現に向かって、チャレンジしてみようと思う」と回答した割合 (R4実績はないが参考に意見交換)	%	若年者支援事業の利用者に実施するアンケートのうち、左記の質問で肯定的に回答した割合	目標値					80
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0%
				事業費					

### ■学識の意見・評価

- あだち若者サポートテラス(SODA)で実施する伴走型コミュニケーション支援プログラムの取り組みは評価が高いため、区内大学の就職担当課と連携し、大学生にも支援を広げてほしい。
- ミライゼミの取り組みは素晴らしいと思う。応募者全員が受講することはできないのか。合否は高校1年生の時の成績で決まってしまうということなのか。実際に2年生や3年生になったら真剣に大学受験のことを考えるので、2年生から入学することはできないのか。また、都立高の拠点校では予備校が入っているが、高いレベルでの学習支援ではない。より高いレベルに挑戦できるミライゼミは支援人数の拡大を検討してはどうか。
- 食の支援について、カードを提供することで、スティグマが発生することが心配だ。人を区別するのではなく、実施場所・時間・時期など工夫することで、貧困の子どもたちが参加しやすいように配慮してほしい。

### ■所管の考え・方向性

- 区内大学へ周知し、就職担当課と連携を図り、大学生の未就職者もSODAの支援プログラムにつなげていく。
- 難関大学合格を目指していくことから、定員を設け、学力診断テストによる成績上位の高校生が入塾できる事業としている。また、合否については、1年生の時だけでなく、2年生のときにも進級テストを行う予定である。令和6年度は高校1年生を新たに募集するとともに、2年生も若干名であるが定員増を予定しており、2学年合わせて56人の支援に拡充していく予定である。
- 誰でも食の支援を受けることができるとなると、モラルハザードにもつながりかねないため、実施方法等については慎重に検討していく。カードの提供によるスティグマが発生しないように高校と連携し、十分配慮しながら支援を実施していく。

## 令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	外国にルーツを持つ児童・生徒の居場所を兼ねた学習支援事業			
事業内容	日本語学習が必要で、経済的理由のある外国にルーツをもつ子どもを対象に、居場所を兼ねた学習支援を実施する。			
子どもの貧困対策に資する役割・目的	本事業は経済的に困窮した世帯の子どもを対象としているため、子どもの貧困の連鎖を断ち切るための一助になると期待される。			
対応する予算の事務事業名	多文化共生推進事業	担当部・課	地域のちから推進部 地域調整課	

### ■活動・成果指標、事業費

単位：千円

指標名		単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6	
① 活動	利用者数	人	新規および前年度から継続した児童・生徒数	目標値	50	50	40	40	
				実績値	22	28	36		
				達成率	44%	56%	90%	0%	#DIV/0!
				事業費	11,442	21,291	21,301		
② 成果	日本語力が向上した利用者の割合	%	利用開始時と終了時の日本語力(読み・書き・漢字習得)を比較し、向上した児童・生徒の割合	目標値	-	90	90	90	
				実績値	-	88	100		
				達成率	#VALUE!	97%	111%	0%	#DIV/0!
				事業費	-	-	-		
③ 成果	学校の通知表結果が向上した利用者の割合	%	前期と後期の学校通知表結果(主要教科)を比較し、向上した児童・生徒の割合	目標値	-	70	70	70	
				実績値	-	62	80		
				達成率	#VALUE!	89%	114%	0%	#DIV/0!
				事業費	-	-	-		
④				目標値					
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				事業費					
⑤				目標値					
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				事業費					
⑥				目標値					
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				事業費					

### ■学識の意見・評価

1. 拠点を3つに増やすことができたのは素晴らしいことだと思う。ただ、参加人数が少ないので、保護者のどちらかが外国にルーツを持つ家庭も含めて、個別にアプローチしてはどうか。
2. 子どもたちが自国のカルチャーを誇りに思うことが重要だと思うので、日本語の学習支援だけでなく、イベントや居場所機能をより充実させてほしい。また、それに合わせて成果指標の見直しも検討してほしい。
3. 保護者への支援は重要で、様々な支援策を見逃している可能性がある。アウトリーチなどにより、必要な支援を強めてほしい。

### ■所管の考え・方向性

1. 今年度は家庭への直接的なアプローチが有効だったため、今後は外国人実態調査に協力いただいた子育て家庭に対し事業案内を送付し、参加を促していく。
2. 当事業では、居場所支援の一環として体験活動を中心としたイベントを実施しているが、自国のカルチャーに触れる機会の提供は行っていないため、今後取り入れていきたい。それに合わせた成果指標の見直しも検討していく。
3. 子どもの学習支援だけでなく保護者支援も重要だと考えており、子どもの送迎時に保護者に声をかけたり、定期的に3者面談を実施するなど、令和4年度は保護者相談件数が年間で117件となった。引き続き保護者相談を継続し、利用可能な支援の紹介とニーズの把握を実施していく。

令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	自立支援事業(①セーフティネット事業、②就労準備支援事業)		
事業内容	①ひきこもりやニートなど社会との関係が希薄で外出や社会参加を回避している状態にある当事者及びその家族などからの悩み相談に応じながら、関係機関への同行支援や居場所の提供等、継続的な支援により、社会参加や自立へのステップアップに寄り添う。 ②就労希望ではあるが離職から長期間が経過している方や就労経験がない等の理由で就職に至るまでにスキルアップ等を要する方に対し、就職に向けた準備を整えるための個別支援を行う。		
子どもの貧困対策に資する役割・目的	①社会的自立が困難な状況に陥っている若者に対し、相談等の支援を通じた自己肯定感の回復・醸成、将来に向けた社会参加、自立への支援を行う。 ②就労意欲はあるが就労への自信が乏しい、就労スキルが不足している若者に対し、就労までの支援を通じて自己肯定感の回復・醸成、将来に向けた社会参加、自立への支援を行う。		
対応する予算の事務事業名	生活困窮者自立支援事業	担当部・課	福祉部足立福祉事務所くらしとじごとの相談センター

■活動・成果指標、事業費

単位:千円

指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6	
① 活動 セーフティネット事業 新規登録者人数	人	セーフティネット事業の年間 新規登録者人数(10代~30代)	目標値	40	40	40	40	
			実績値	28	26	36		
			達成率	70%	65%	90%	0%	#DIV/0!
			事業費	36,092	36,106	36,152		
② 活動 就労準備支援事業 事業新規参加人数	人	就労準備支援事業の年間の 新規参加人数(10代~30代)	目標値	55	55	55	55	
			実績値	31	33	54		
			達成率	56%	60%	98%	0%	#DIV/0!
			事業費	49,875	51,201	832		
③ 成果 セーフティネット事業 関係機関へつないだ人数	人	セーフティネット事業の年間 のリファー人数(10代~30代)	目標値	35	35	35	35	
			実績値	20	23	18		
			達成率	57%	66%	51%	0%	#DIV/0!
			事業費	-	-	-		
④ 成果 就労準備支援事業 就労決定人数	人	就労準備支援事業の年間の 就労決定人数(10代~30代)	目標値	40	40	40	40	
			実績値	25	21	27		
			達成率	63%	53%	68%	0%	#DIV/0!
			事業費	-	-	-		
⑤			目標値					
			実績値					
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
			事業費					
⑥			目標値					
			実績値					
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
			事業費					

■学識の意見・評価

- 現在支援を継続している方々のサポートは重要であり、無理に就労につなげるのではなく、居場所支援のような自立を目指さない支援も必要かと思う。
- 成果指標として関係機関に繋いだ人数と、就労決定の人数を挙げているが、ひきこもり支援については相談につながっていることのほうが重要。新たに指標とすることを検討してはどうか。
- 居場所のニーズは高いと受け止めている。ひきこもりからの回復プロセスとしても継続していただきたい。

■所管の考え・方向性

- 就労や自立ありきの過度な支援、特にセーフティネット事業(ひきこもり支援事業)では、かえって事態を悪化させてしまう要因となる。就労に直結する支援のほか、居場所の提供や生活習慣の維持・改善に向けた支援など自立に向けた段階的な支援メニューを、本人の考えやペースを優先のうえ引き続き提供する。また、本人に寄り添った支援という区別の考え方や姿勢は、例えばセミナーや説明会等を通じて広く庁内外に発信するなど、自立支援に対する理解の浸透も重要であると考えます。
- ひきこもりの方への支援は、関係機関との連携のもと、長期間に渡る粘り強い伴走支援が求められることも多い。相談につながっている方々に関する指標については今後検討する。
- ひきこもり段階のいわゆる「充電期」において、自宅以外で安心して身を寄せられる居場所は、本人と社会をつなぐ前段階として有効であり、また、ニーズも高く、重要な支援ツールのひとつであるため、今後も継続する。

## 令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	学校における外国籍と外国にルーツをもつ子どもたちへの支援 (①日本語適応指導講師の派遣、②あだち日本語学習ルーム運営事業)			
事業内容	①帰国児童・生徒及び外国人児童・生徒の日本語習得と早期に学校生活に適應できるよう、児童・生徒の母語に通じた日本語適応指導講師を小・中学校に派遣する。 ②あだち日本語学習ルームへの通室を通して、外国籍等生徒が早期に日本語習得と学校生活への適應が図れるよう支援する。			
子どもの貧困対策に資する役割・目的	日本語未習得生徒の日本語の習得と学校生活への適應を支援する。			
対応する予算の事務事業名	学校の指導事務	担当部・課	教育指導部教育指導課	

### ■活動・成果指標、事業費

単位：千円

① 活動	指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6	
				目標値	130	130	130	130	
② 活動	【日本語適応指導講師の派遣】 対象者数	人	新規および前年度継続の児童・生徒数	実績値	148	86	151		
				達成率	113%	66%	116%	0%	#DIV/0!
				事業費	21,675	12,423	22,404		
				目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	
③ 活動	【日本語適応指導講師の派遣】 派遣時間数	時間	児童・生徒を指導した講師の時間数(延べ)	実績値	7,225	4,141	7,468		
				達成率	103%	59%	106%	0%	#DIV/0!
				事業費	①と②は同じ予算				
				目標値	30	30	30	35	
④ 成果	【あだち日本語学習ルーム運営事業】 あだち日本語学習ルーム通室人数	人	年度中にあだち日本語学習ルーム(2か所)に通室した生徒数	実績値	28	16	38		
				達成率	93%	53%	127%	0%	#DIV/0!
				事業費	22,188	22,086	27,394		
				目標値	30	30	30	30	
⑤	【あだち日本語学習ルーム運営事業】 あだち日本語学習ルーム卒業者数	人	年度中にあだち日本語学習ルームに通室した生徒のうち、卒業した人数	実績値	21	13	4		
				達成率	70%	43%	13%	0%	#DIV/0!
				事業費					
				目標値					
⑥				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				事業費					
				目標値					

### ■学識の意見・評価

1. 日本語学習ルームは、できれば日本語指導を必要としている子どもを100%カバーした方が良い。通級していないならどのような理由なのかを確認した方が良い。
2. 孤立やいじめなど学校生活に関する相談体制も必要かと思うがどうか。
3. 子どもの貧困対策やこども大綱案においては、子どものニーズにこちらから合わせるという視点で展開している。学校側でもダイバーシティの観点で、指導を進めることが必要と思う。

### ■所管の考え・方向性

1. 令和5年度に西分室を設置する際に、通級していない生徒について学校経由で理由を聞いた。学校を通じて通級を促してもらっている中で、距離や時間的な要因により通級が難しい生徒もいる。
2. 日本語学習ルームには学校管理職OBの責任者も在籍しており、その指導の下、講師も生徒の様子に留意している。異変に気付いた講師が生徒から話を聞き出し、関係機関に繋げた事例もあるが、今後は生徒と講師・責任者で学校生活に関する相談を目的とした面接を定期的に行い、在籍校と情報交換・連携して対応していく。
3. 日本語指導を受けている生徒にアンケートや、指導主事の学校訪問により、指導に関する満足度や不安がないか等を把握するとともに、日本語教育推進法、教育機会確保法の趣旨に則り、ダイバーシティの観点で、今後の日本語指導に活かしていく。

令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	発達支援児に対する事業の推進			
事業内容	0歳から18歳未満の発達について相談できる窓口を開設しています。保健センターへ心理士を派遣し、1歳半・3歳児健診時にスクリーニングを行い発達相談を実施しています。保育所等を訪問し、保育上の合理的配慮を助言します。区立私立の保育所の4歳児の行動観察を行い、早期発見のしくみ(気づきのしくみ)の構築を図っています。発達支援児の判定等を行う発達支援委員会で検討された指導内容を在籍園に助言します。心理士の助言をもとに保育者が個別支援計画を作成し、就学先への引継ぎ支援の継続を図ります。			
子どもの貧困対策に資する役割・目的	保護者の不安に寄り添い、児童の特性を早期に捉え、特性に適した対応をすることで児童の自己肯定感を育み、就学先に配慮事項を引き継いで児童の困り感を軽減し、二次的障がいである不登校等の要因を早期に予防する。			
対応する予算の事務事業名	発達障がい児支援事業	担当部・課	子ども家庭部こども支援センターげんき支援管理課	

■活動・成果指標、事業費

単位:千円

指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6	
① 活動 相談児童数	人	こども支援センターげんきで行った電話相談、窓口相談、訪問支援(巡回、発達相談、専門職派遣、気づきのしくみ)での相談の延べ児童数	目標値	4,320	4,300	4,300	4,200	
			実績値	4,225	4,273	4,467		
			達成率	97%	99%	103%	0%	#DIV/0!
			事業費	-	-	-		
② 活動 発達支援児数	人	発達支援委員会への年間申請総件数	目標値	460	520	550	550	
			実績値	501	543	547		
			達成率	108%	104%	99%	0%	#DIV/0!
			事業費	-	-	-		
③ 活動 巡回訪問で支援した児童・生徒数	人	利用希望者が申請して、訪問支援(巡回、発達相談、専門職派遣)で支援した児童・生徒の延べ人数	目標値	1,500	1,300	1,300	1,000	
			実績値	1,035	1,035	1,035		
			達成率	69%	80%	80%	0%	#DIV/0!
			事業費	-	-	-		
④ 成果 子育ての不安が軽減した割合	%	ペアレントトレーニングに参加した保護者によるアンケート結果で子育ての不安が軽減した割合	目標値	25	25	28	28	
			実績値	20	27	27		
			達成率	80%	108%	96%	0%	#DIV/0!
			事業費	11,436	16,464	26,207		
⑤			目標値					
			実績値					
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
			事業費					
⑥			目標値					
			実績値					
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
			事業費					

■学識の意見・評価

- 巡回訪問については、アウトリーチによる個別の世帯と、保育所でのサポートをバランスよく取り組んでおり、高く評価する。
- 今後、発達支援児に対する事業の指標に、相談や巡回件数のほか、子どもの貧困対策に関する成果を追加することで、貧困対策として可視化できると思う。
- 子育ての不安解消は難しいと思うが、令和2年度比で4年度は7ポイント上昇した。一方、73%の方は不安が解消したとは必ずしも言えない。よりサポートを充実させて、不安の軽減に向けてさらなる取り組みを推進していただきたい。

■所管の考え・方向性

- 今後とも、職員の人数増を検討し、お待たせしない訪問支援・相談支援を行なうことで保護者・保育者等の不安軽減に努める。
- 令和6年度中に関係機関と連携できた件数の統計をとり、令和7年度に、子どもの貧困に関する成果を追加できるようにする。
- ペアレントトレーニングの期ごとに対象学年を絞り、内容の充実を図る方向で検討し、子育て不安を軽減していけるよう努める。

## 令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	教育相談(①教育相談事業、②スクールカウンセラー派遣事業、③SSW活用事業)			
事業内容	①不登校や発達障がい等、子育てや教育上のあらゆる悩みの解決を図るため、相談事業を実施する。 ②子どもや保護者の学校生活における相談を受け、教職員との連携等により解決を図るため、全小・中学校にスクールカウンセラー(SC)を配置する。 ③ひきこもりや不登校等の生活指導上の困難な課題について、子どもの環境に働きかけることにより解決を図るため、小・中学校を拠点に必要な支援を行うスクールソーシャルワーカー(SSW)を配置する。			
子どもの貧困対策に資する役割・目的	①子どもが自らの課題に直面し、解決する能力を育てるカウンセリング活動を通し、自信を持って社会で生きていく力を獲得させる。 ②学校内の教育相談体制の充実を進め、いじめ・不登校の未然防止や養育困難家庭への対応等、学校内の問題・課題の早期改善、解決を図る。 ③関係機関との連携によりひきこもりや不登校の改善を図り、学校復帰や高校進学につなげ将来の就労の可能性を高め、貧困の連鎖を断つ。			
対応する予算の事務事業名	教育相談事業	担当部・課	子ども家庭部こども支援センターげんき教育相談課	

### ■活動・成果指標、事業費

単位:千円

活動	指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2					
				R2	R3	R4	R5	R6	
① 活動	【教育相談事業】 相談回数	回	不登校や発達障がいを含む教育に関する年間相談回数(延べ)	目標値	22,000	22,000	22,000	22,000	
				実績値	20,134	21,460	19,438		
				達成率	91%	97%	88%	0%	#DIV/0!
				事業費	5,394	4,190	4,260		
② 活動	【SC派遣】 相談回数	回	児童・生徒や保護者(教職員を含む)からの学校生活における年間相談回数(延べ)	目標値	32,500	36,400	36,050	35,700	
				実績値	34,433	35,592	35,284		
				達成率	105%	97%	97%	0%	#DIV/0!
				事業費	1,272	1,602	1,908		
③ 活動	【SSW活用事業】 学校訪問回数 (ケース会議回数を含む)	回	ケース会議を含む年間学校訪問回数(延べ)	目標値	2,200	2,200	2,500	2,500	
				実績値	2,429	2,070	2,518		
				達成率	110%	94%	101%	0%	#DIV/0!
				事業費	3,622	925	874		
④ 活動	【SSW活用事業】 家庭訪問回数	回	実態調査を含む年間家庭訪問回数(延べ)	目標値	900	900	1,000	1,200	
				実績値	1,693	1,084	1,212		
				達成率	188%	120%	121%	0%	#DIV/0!
				事業費	3,622	925	874		
⑤ 成果	不登校状態が改善された児童・生徒の割合	%	校内委員会での協議に基づく指導によって、状況が改善した児童・生徒の割合	目標値	45	48	55	62	
				実績値	41	40	52		
				達成率	91%	83%	95%	0%	#DIV/0!
				事業費					
⑥				目標値					
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				事業費					

### ■学識の意見・評価

1. 不登校が子どもの貧困に起因する背景の有無を把握して、相談に対応しているか。子どもの貧困対策として機能させていくためには、指標の中に盛り込むことで、より実効性のある取り組みになると思う。
2. 相談業務においては、全体としては着実に進展していると評価する。これまでの指標の推移から、スクールソーシャルワーカーはスクールカウンセラーと比べると拡充の余地があるかと思う。

### ■所管の考え・方向性

1. スクールソーシャルワーカーの受理ケースの中で、関係機関(福祉事務所の福祉課等)と連携した件数等、子どもの貧困に関する指標を令和6年度より追加できるよう検討する。
2. スクールソーシャルワーカーは現在18人が一人5~6校を巡回訪問している。今後、計画的に増員を図り、一人あたりの担当校を減らすことで学校及び家庭の訪問回数を更に増やしていくよう努める。



## 令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	不登校支援(①登校サポーター派遣事業、②特例課程教室あすテップ、③チャレンジ学級、④不登校児童・生徒の居場所)			
事業内容	①不登校初期の児童・生徒の学校復帰、登校状態の改善を図るため、登校サポーターを派遣し、登校支援や教室に入れない生徒の別室での学習支援等を行う。 ②③不登校児童・生徒の学校復帰を目指すとともに、自己肯定感を高め、学校や社会に出る力をつけるため、学校以外の場所に基礎学力の補充や集団生活の場を開設し、きめ細かな支援を行う。 ④小学5年生から中学3年生の不登校児童・生徒に対して「安心して過ごせる居場所」を提供し、コミュニケーション能力や正しい生活習慣を養いながら、学校復帰又は進学するための学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。			
子どもの貧困対策に資する役割・目的	①②③不登校児童・生徒の復帰、登校状態の改善を図ることで、学習機会を確保、自己肯定感を高めて進学への意欲を喚起する。 ④不登校児童・生徒の居場所や学習機会を確保し、自己肯定感を高めて進学への意欲を喚起する。			
対応する予算の事務事業名	教育相談事業	担当部・課	子ども家庭部こども支援センターげんき教育相談課	

### ■活動・成果指標、事業費

単位:千円

活動	指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6	
				目標値	実績値	達成率	事業費	目標値	実績値
① 活動	【登校サポーター派遣事業】 支援人数	人	登校サポーターを派遣し、年間支援した児童・生徒数	目標値	150	256	302	345	
				実績値	244	288	329		
				達成率	162%	112%	108%	0%	#DIV/0!
				事業費	0	9	5,474		
② 活動	【特例課程教室あすテップ】 通級児童・生徒数	人	あすテップの年間受け入れ総人数	目標値	40	40	40	40	
				実績値	16	23	20		
				達成率	40%	57%	50%	0%	#DIV/0!
				事業費	1,810	1,229	1,540		
③ 活動	【チャレンジ学級】 通級児童・生徒数	人	チャレンジ学級への年間受け入れ総人数	目標値	120	120	120	120	
				実績値	88	83	105		
				達成率	73%	69%	88%	0%	#DIV/0!
				事業費	1,371	1,785	1,141		
④ 活動	【不登校児童・生徒の居場所】 支援人数	人	不登校児童・生徒のための居場所を兼ねた学習支援事業を利用した児童・生徒数	目標値	50	60	70	80	
				実績値	54	67	79		
				達成率	108%	112%	113%	0%	#DIV/0!
				事業費	295	11,089	10,996		
⑤ 成果	不登校状態が改善した児童・生徒の割合	%	校内委員会での協議に基づく指導によって、状況が改善した児童・生徒数	目標値	45	48	55	62	
				実績値	41	40	52		
				達成率	91%	83%	95%	0%	#DIV/0!
				事業費					
⑥				目標値					
				実績値					
				達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
				事業費					

### ■学識の意見・評価

- 評価対象事業とは異なるが、不登校の支援に関わる企業や団体は多くあり、国の政策も民間との連携を強めていくということが強調されている。令和2年度からの支援者数を見ると、それぞれの事業も着実に進展しているが、区の居場所を兼ねた学習支援と同様、民間との連携を進めていくことが必要と思う。
- 校内型の不登校支援は、次のステップに進むうえで非常に重要であり、国も重視していると思う。コロナ禍ではリモートで学校と繋がっていた子どもが、平常に戻っていく中で行けなくなった側面もあるという認識があるし、居場所を兼ねた学習支援が定員を超えている状況から、離れていても何らかの形で学校と繋がるニーズが高いと思う。ICTを活用した事業の拡充を検討してはどうか。
- 不登校の子どもたちにはいろいろな背景があり、子どもの貧困対策という観点を指標に反映されると、可視化できると思う。

### ■所管の考え・方向性

- 令和3年度から外出が困難な不登校の児童・生徒へのアウトリーチ支援として、民間事業者と連携して家庭に講師を派遣し学習を支援している。さらに、令和6年度開設の私立不登校特例校と連携し、不登校児童・生徒に特化したICTの活用による学習支援方法の共有やフリースクールや大学の運営により蓄積された多様な民間のノウハウを区の施策に活かす相互交流を実施していく。
- 不登校を長期化させないために、児童生徒と学校との繋がりを保つことが不可欠であるため、一人一台配付したタブレット端末を活用し、授業のオンライン配信を推進する。チャレンジ学級・あすテップでは、通級生が自宅からでも受講できるよう、オンライン配信を令和5年度中に試行実施し、令和6年度から本格的に実施していく。
- 家庭の経済的な状況を支援策選択の判断基準としていないため、子どもの貧困という観点での指標に反映できない状況だが、不登校の要因は様々であり、中には貧困に起因するものもあると考えられる。不登校支援策を進めるうえでは子どもの心理面を重視し、個々の状況を踏まえて対応する。

令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	養育困難改善事業		
事業内容	子育てに関する相談を受け、実情の把握、情報の提供を行い、専門機関や地域と連携して支援にあたる。また、児童虐待や養育困難家庭に対応するための要保護児童対策地域協議会の開催や児童虐待予防の周知と啓発のための講座やキャンペーン等を実施する。		
子どもの貧困対策に資する役割・目的	子どもの最善の利益を念頭に、家庭を保護者ごと支え、子どもが家庭で安心・安全に暮らせるよう支援する。		
対応する予算の事務事業名	養育困難改善事業	担当部・課	子ども家庭部こども支援センターげんきこども家庭支援課

■活動・成果指標、事業費

単位：千円

指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6	
① 児童虐待緊急対応事業	件	児童虐待受理件数。虐待の可能性ありとして調査・対応をおこなった件数(児童数)	目標値	898	979	1,110	1,181	
			実績値	1,053	1,028	1,464		
			達成率	117%	105%	131%	0%	#DIV/0!
			事業費	0	0	0		
② 要保護児童対策地域協議会の開催	回	関係機関連携を維持するべく実施した要対協(代表者会議、実務者会議、個別会議)の開催回数	目標値	280	290	270	270	
			実績値	268	261	282		
			達成率	95%	90%	104%	0%	#DIV/0!
			事業費	0	0	0		
③ きかせて子育て訪問事業 利用人数	人	きかせてサポーターが利用者宅で支援を行った年間延べ利用人数	目標値	30	30	150	94	
			実績値	42	148	93		
			達成率	140%	493%	62%	0%	#DIV/0!
			事業費	3,756	3,756	3,756		
④ 児童虐待解決率	%	虐待通告数全体に占める、訪問指導や関係機関との連携により、虐待を起こす要因が解消されたケースの割合	目標値	80	80	80	80	
			実績値	66	65	72		
			達成率	83%	81%	90%	0%	#DIV/0!
			事業費					
⑤			目標値					
			実績値					
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
			事業費					
⑥			目標値					
			実績値					
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
			事業費					

■学識の意見・評価

- 児童虐待対応において、都の連携が増えていくなかで、より力を入れた取り組みが今後展開されることを期待している。全体として、充実した取り組みになっている。
- 該当する家庭への個別訪問は重要であり、その一環として、きかせて子育て訪問事業などのアウトリーチを少しずつ広げながら、支援や介入が必要なケースに即時対応することを充実していただきたい。
- 保護者が話してくれない場合でも、子どもからSOSが出るケースもあるのではないかと。国が進める子どもの意見を聴くための手立てができると、できることの幅も広がると思う。

■所管の考え・方向性

- 23区では、区で児童相談所を設置する区がある一方、サテライトオフィスや分室を設置して、都児童相談所と連携を図りながら児童相談体制を構築していこうとする区もある。足立区は分室の設置などにより都児童相談所と連携して区内の児童相談体制の構築を検討していく。
- きかせて子育て訪問事業でのアウトリーチは、幼児のうち、未通園児を対象にしている。個別訪問では子育てガイドブックをはじめとした区のサービス案内等を渡すことをきっかけに子どもの様子を伺う機会としているが、実際には子どもと会えない事例もある。引き続き、こうした取組を周知しながら、孤立傾向のある家庭へのアプローチを続けていく。
- 意見聴取等の措置など、現在、区で具体的な方向性について検討していると聞いている。どのような場合にどのような手続きとなっていくかなど、具体的な通知等を受けて検討していく。

## 令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	学習環境整備支援(塾代支援)等			
事業内容	生活保護世帯の子どもの学習塾などへの通塾や夏季・冬季・集中講座、補習講座の受講などにより、学校以外での学習環境を整備し、高校進学率の向上などにつなげる。また、平成29年度から高校3年生の塾代支援及び大学等への進学にかかる費用を支援し、大学等進学率の向上につなげる。			
子どもの貧困対策に資する役割・目的	被保護者世帯の学習環境の整備を支援し、将来の自立の一助とします。			
対応する予算の事務事業名	生活保護法外援助費給付事業	担当部・課	福祉部足立福祉事務所生活保護指導課	

### ■活動・成果指標、事業費

単位：千円

①	活動	指標名	単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6
					利用者数	人	学習支援プログラム年間利用者数	目標値	640
				実績値	327	335	301		
				達成率	51%	52%	83%	0%	#DIV/0!
				事業費	32,685	36,241	31,042		
②	成果	生活保護世帯の子どもの高校等進学率	%	生活保護世帯の中学3年生のうち、高校進学した生徒の率	目標値	98.5	98.6	98.6	98.0
				実績値	84.9	85.1	83.9		
				達成率	86%	86%	85%	0%	#DIV/0!
				事業費	-	-	-		
③	成果	生活保護世帯の子どもの大学等進学率	%	生活保護世帯の高校3年生のうち、進学した生徒の率	目標値	67.3	69.8	69.8	69.0
				実績値	45.3	43.9	46.4		
				達成率	67%	63%	66%	0%	#DIV/0!
				事業費	-	-	-		
④					目標値				
					実績値				
					達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
					事業費				
⑤					目標値				
					実績値				
					達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
					事業費				
⑥					目標値				
					実績値				
					達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
					事業費				

### ■学識の意見・評価

1. 貧困の連鎖を抜け出すための子どものレジリエンス(困難を乗り越え回復する力)は、小学2年生までともいわれている。学習習慣や意欲は就学前の時期に育まれることが大事。就学前から習い事などのやりたいことを諦めさせていることが、そもそもの諦めに繋がっている。就学前の支援ができれば、親子ともに前向きになりやすい可能性はある。
2. 塾代支援を受けている子どもたちは、学ぶことへのモチベーションが低い子が多いと思う。学ぶことへのモチベーションを子どもの側で作るきっかけは塾だけではないと思う。
3. 4歳から使えるスタディクーポンがあれば、習い事の格差を縮減させることに繋がり、親御さんも諦めさせなくて済むという気持ちが出てくる。子ども自身にやる気があるのに、保護者がブロックすることが子どもも意欲を無くしてしまう。

### ■所管の考え・方向性

1. 生活保護世帯への塾代支援費の対象は小学生～高校生のため、就学前児童への生活保護での支援メニューが無い。一方、委員から提案された就学前からの習い事支援は、保護者の付き添いの必要性や、土日への集中など課題も多い。まずは、生活保護世帯のニーズ確認を行いながら検討を進める。
2. および3. 塾代支援費は生活保護法外の東京都メニューのため、就学前の習い事部分を補助対象にできるスキームの検討を進める。その上で、ニーズ調査と合わせて必要性を判断していく。
3. 就学前の習い事支援は、子を習い事に通わせられない親の心理的負担を軽減でき、結果的に子の自己肯定感に帰ってくるため、有効な支援策というのは、これまで気づいていなかった視点である。対象を生保世帯だけに限定しない場合の、就学前児童への習い事支援についてのあり方を検討する。

## 令和5年度子どもの貧困対策主要事業評価調書(R4実績)

事業名	あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト(ASMAP)の推進事業		
事業内容	妊娠期から子育て期における支援の充実により、楽しんで子育てができ、虐待を未然に防げるようサポートする。		
子どもの貧困対策に資する役割・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠届出時アンケートやスマイルママ面接を活用し、きめ細やかな支援を行い、妊婦の栄養ニーズに対応している。</li> <li>・要支援妊婦に対するフォローにより、貧困層・脆弱者の保護及び妊産婦の死亡率の削減に貢献している。</li> <li>・産後支援や乳幼児健康診査を通し、保護者の精神的・経済的負担軽減を図るとともに、乳幼児の疾病の予防や早期発見、新生児・5歳未満の予防可能な死亡の根絶に寄与している。</li> </ul>		
対応する予算の事務事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳・ファミリー学級事業</li> <li>・妊産婦・乳幼児相談事業</li> <li>・妊婦健康診査事業</li> <li>・乳児・1歳6か月児・3歳児健康診査事業</li> </ul>	担当部・課	衛生部保健予防課

### ■活動・成果指標、事業費

指標名		単位	指標の定義(算出根拠)	R2	R3	R4	R5	R6	
① 活動	特に指導・支援を要する妊産婦への訪問人数	人	妊娠届出時アンケート・スマイルママ面接で「特に指導・支援が必要」と判断された妊産婦に対し、保健師等が訪問した実人数	目標値	295	272	257	258	
				実績値	385	309	284		
				達成率	131%	114%	111%	0%	#DIV/0!
				事業費	86,687	42,177	41,656		
② 活動	こんにちは赤ちゃん訪問の実施件数	件	生後3か月以内の母子に対し、保健師等が訪問した件数	目標値	4,038	3,726	3,728	3,831	
				実績値	4,179	4,033	4,020		
				達成率	104%	109%	108%	0%	#DIV/0!
				事業費	17,898	17,242	18,166		
③ 活動	日曜ファミリー学級の開催数	回	妊婦とパートナー等を対象とした日曜ファミリー学級の開催数	目標値	8	9	9	11	
				実績値	9	7	9		
				達成率	113%	78%	100%	0%	#DIV/0!
				事業費	1,682	2,174	2,941		
④ 活動	宿泊型産後ケアの総利用可能日数	日	産後4か月未満の母子を対象とした宿泊型産後ケアの総利用可能日数	目標値	-	-	1,750	2,480	
				実績値	-	-	1,526		
				達成率	#VALUE!	#VALUE!	88%	0%	#DIV/0!
				事業費	-	-	32,076		
⑤ 成果	ファミリー学級実施時のアンケートで子育てに対するイメージが湧いた割合	%	ファミリー学級時アンケートで「夫婦で協力して子育てに取り組むイメージが湧いた」という質問に「強くそう思う」「ややそう思う」と答えた割合	目標値	-	-	95	100	
				実績値	-	-	100		
				達成率	#VALUE!	#VALUE!	106%	0%	#DIV/0!
				事業費	-	-	-	-	-
⑥ 成果	宿泊型産後ケア実施時のアンケートで不調や不安が改善された割合	%	宿泊型産後ケア時のアンケートで「産後ケアを利用したことで不調や不安は改善されたか」という質問に「改善された」「概ね改善された」と答えた割合	目標値	-	-	95	95	
				実績値	-	-	89		
				達成率	#VALUE!	#VALUE!	94%	0%	#DIV/0!
				事業費	-	-	-	-	-

### ■学識の意見・評価

1. スマイルママ面接の時と、産後の赤ちゃん訪問の時の様々なクーポンの給付は良い取り組み。実質的な給付がなくても足立区の支援はきめ細かく、出産・子育てされる方が羨ましいと思う。
2. 一方、第二子、三子の産後の方は一層忙しくなっていると思う。見守り対象や特段の相談歴などが無い場合は、オンライン面接でよいと思う。検討されたい。
3. 男性の家事能力は国際比較から見ても低いことがわかっている。ファミリー学級において、子育ての当事者の声も反映しながら、男性の家事支援について触れるべき。家事のコツを編集した動画もよいと思う。

### ■所管の考え・方向性

1. 足立区では妊娠期から子育て期まで多方面から切れ目のない支援を実施している。スマイルママ面接やこんにちは赤ちゃん訪問で母親相談を受けることで出産・育児の不安解消につなげている。また、精神面だけでなくこども商品券や出産・子育て応援ギフトクーポンを配付することで経済面からも支援に努めている。
2. 第二子、第三子の場合でも、母子の状態や家庭内環境等の現況を対面で確認することにより、虐待の未然防止や必要な支援をその他機関に繋げるために重要であると考えているため、オンラインではなく当面は対面での赤ちゃん訪問にこだわりたい。しかし、対面での相談を希望する方がいる一方、時間に余裕がない母親もいることは把握している。赤ちゃん訪問が実施できない場合、保健センター等で実施する乳幼児健診等の機会を捉え、現況を確認し相談に乗ることで支援につなげていく。今後も、母親のニーズに沿った方法で継続した支援を行えるよう、面接や訪問時等で意見を伺いながらも、対面の必要性を伝えていきたい。
3. ファミリー学級は、多くのパートナーにも参加していただいている。父親ハンドブックやパパのための育児BOOKを配付・説明することで、妊娠中からの母親のケアや育児に対する意識を高めてもらえるよう努めている。今後も、面接等で相談を受ける際に母親の意見を伺い、これらの冊子を活用しながら、パートナーの家事分担等育児全般の自主性を高められるよう、ファミリー学級だけでなく窓口等でも案内していけるよう努める。